

第 8 期 事業計画

1 研究事業

(1) 造礁サンゴ類の増殖に関する研究

サンゴ種苗の開発

昨年度までの研究で数種のサンゴについて種苗生産技術の目処がついたので、今年度は実際に需要者に対する供給を目的に 1000 個を目標にサンゴ種苗の生産を行う。本研究の成果は土佐清水市竜串及び徳島県海陽町竹ヶ島で取り組みが行われている自然再生事業にも利用される。

研究所地先におけるサンゴ産卵状況の調査

夜間に潜水して研究所地先に生息するサンゴの産卵状況を調査する。平成 14 年度より継続。昨年度 5 年分の資料をまとめて Kuroshio Biosphere に公表したが、サンゴ増殖の最も基礎的な情報であり、採卵等の作業に有用な調査なので、今後も継続する。

四国沿岸のサンゴの分布と加入状況の調査

平成 16 年度より継続。東海大学との共同研究。着生板を用いた加入量調査では、四国沿岸ではミドリイシ類の加入が少なく、ハナヤサイサンゴ類の加入が多い傾向が明らかになってきたが、その原因について、調査手法の再検討を含めて追及する。本調査のデータは環境省のモニタリングサイト 1000 事業、土佐清水市竜串及び徳島県海陽町竹ヶ島で取り組みが行われている自然再生事業にも利用される。

サンゴの生殖周期・産卵パターンに関する研究

サンゴがどのような過程を経て、何に刺激されて成熟・産卵するのかを、組織学的・生態学的手法を用いて検討する。

サンゴ類の栄養に関する研究

サンゴが獲得している栄養について、共生藻と摂餌に対する依存度が種類によってどのように違うのかを調査し、サンゴが生育するための環境条件について検討する。岩瀬の博士論文研究。

(2) 海藻に関する研究

高知県南西部海域の海藻植生に関する研究

宿毛市・大月町・土佐清水市海域に生育する海藻植生を調査し、現在の海藻植生を詳しく把握すると共に、過去の資料と比較して海藻相の変化を明らかにする。田中の修士論文研究。

高知県沿岸の藻場調査

昨年度に引き続き、沿岸のホンダワラ類、コンブ類で構成される藻場の分布と種組成を明らかにする。高知県水産試験場、高知大学との共同研究。

藻場造成の可能性を検討する試験

大月町および近隣海域において、藻場造成の可能性を検討する試験。大月町、海の森づくり研究会の協力事業。

(3) ウミガメに関する調査等

ウミガメ類に関する情報収集

漁業において混獲されるウミガメ類に標識を装着して放流、漂着したウミガメの死体の体格計測や消化管内容物の採取、産卵上陸したウミガメの情報収集など、ウミガメ類に関する情報の収集

を行う。

ウミガメ情報ネットワークの発展

平成 15 年度に発足した「遊亀会」について、会員相互の情報交換を盛んにする。

(4) 近隣地域・海域における動植物相に関する研究等

大月町海域の海棲動植物相調査

上記サンゴ類の分布調査、藻場・海藻植生に関する調査研究の他にも、海棲動植物に関する情報や標本の収集・整理に努める。海域だけでなく、研究所近隣の小川等に見られる水生植物(広義)についても標本の収集・整理をはじめており、更に調査を進める。

(5) その他

スナギンチャク類の組織切片作成方法の検討

昨年度ステラケミファの協力を得て、フッ酸を用いてスナギンチャク類の体内に取り込まれている砂粒等を除去し、組織切片を作成する方法について検討を行った。15%フッ酸で 24 時間程度処理することにより、良好に砂粒が除去されることが分かった。今年度は処理したサンプルの組織切片標本の作成を行い、残存固形物の有無、染色性への影響、組織の損傷度合い等を明らかにし、パuffersの有無等、適正な処理方法の確立を目指す。

足摺宇和海海域のサンゴ食害生物の分布状況に関する研究

一昨年度および昨年度、足摺宇和海海域におけるサンゴ食害生物の分布状況を明らかにするため、駆除情報の聞き取り調査や被害状況調査、駆除作業の実施と参加、また駆除されたオニヒトデの体長組成の測定などを行い、総合的な情報を収集した。結果の一部はこれまでに CURRENT に公表したが、総括的にまとめたものを Krosbio Biosphere 等に発表する予定。本研究のデータは環境省国立公園管理方針検討調査の資料としても利用される他、今後のモニタリング体制構築のためにも利用される。

2 研究助成事業

研究助成事業は 3 年目になる。大学生・大学院生の次年度研究内容を検討する時期に合わせて欲しいとの要望に応え、平成 19 年度の助成については平成 19 年 2 月に募集を行った。また、研究所地先の海域でサンゴの産卵状況が明らかになってきたこと、これらのサンゴの採卵・初期育成技術が確立してきたことを踏まえ、黒潮生物研究所を利用して、地先のサンゴの発生に関わる研究を行う者 1~2 名を優先的に採用する特別枠を設けたところ、この枠に対して 3 名、全体で 18 名の応募があった。

応募資格：卒研究生、大学院生、その他の研究者

助成内容：研究費の補助

助成金額：20 万円以内 / 5 件

応募要領：在学生は指導教官の推薦状必要。一般は自薦、他薦の推薦書必要。

選考方法：当財団理事 / 評議員に回覧し、点数制で助成順位を決める。

助成研究成果の公表：財団所定の様式により、研究の概要について報告書を提出。報告書はホームページ等で公表。また、財団主催の講演会で研究成果を発表してもらう。

助成者決定時期：4 月上旬

助成時期：5 月

3 協力事業

竜串自然再生協議会

高知県土佐清水市竜串湾の衰退したサンゴ群集の再生を目指す取り組み。岩瀬が協議会会長代理として、中地が全体構想ワーキンググループ座長として、研究所が協議会委員として参加。環境省から海域調査業務を請け負っている。

竹ヶ島自然再生協議会

徳島県海陽町竹ヶ島海中公園地区のシンボルである美しい緑色のエダミドリイシが衰退し、内湾生の強いカワラサンゴに置き換わっている状況を元に戻そうとする自然再生の取り組み。岩瀬が専門委員、研究所が協議会委員として参加。徳島県から委託を受けているコンサルタント会社から業務の一部を再委託されている。

日本刺胞動物等談話会「NCB」の開催

国内の刺胞動物・有櫛動物の研究者が一年に一度集って情報交換を行う趣旨で平成17年に結成された会。岩瀬は設立発起人の一人。一昨年は和歌山県白浜、昨年は千葉県勝浦で開催され、今年度は秋に大月で開催予定。

4 受託調査・事業等

来年度、受注を予定している事業は以下の通り。

竜串自然再生推進調査のうちモニタリングおよびサンゴの増殖技術の検討

発注者：環境省 中国四国地方環境事務所

内容：環境省が中心となって進めている竜串地区の自然再生調査において、モニタリングと増殖技術の検討を継続受注の予定。

竹ヶ島自然再生推進調査のうち、エダミドリイシ生育特性の検討

発注者：徳島県（ニタコンサルタント）

内容：徳島県が中心となって進めている竹ヶ島海中公園地区の自然再生調査において、エダミドリイシ加入状況と種苗の成長モニタリングを受注の予定。

モニタリングサイト1000事業（サンゴ礁海域モニタリング事業）

発注者：自然環境研究センター

内容：環境省が行っているサンゴ礁海域モニタリング事業のうち、四国南西部沿岸を担当している。

5 啓蒙・広報活動

(1) 和文機関誌「CURRENT」の発行継続（季刊：4, 7, 10, 1月）

(2) 英文機関誌「Kuroshio Biosphere」の発行継続（年1回）

(3) ホームページの運用（情報公開を含む）

研究所設備や備品の一覧などを掲載し、ホームページの利便性を高める。また、ブログの書き込みを増やす。

(4) 小学生対象のサマースクール開催

(5) 高知新聞に「海の歳時記（仮称）」の連載予定